

大阪は「まち」がほんまにおもしろい



弘法大師の靈験伝説の地・針中野をゆく

～庚申街道から「はりのみち」、鷹合神社まで～

弘法大師が布教の途上に宿を借り、そのお礼として金針を授与したという中野鍼灸院。明治の頃には「中野鍼まいり」として1日500人以上の人々が殺到したといひます。また酒君塚古墳や鷹合神社など、仁徳天皇ゆかりの旧跡なども巡ります。

⑤ 中井神社

「三代実録」(901年)という書物には、摂津国「田辺東神」と記されていて、古来、安産の神様とされ、ご祭神にちなんで「牛頭天王社」とよばれていました。社前に清水の湧く井戸があり、霊水として大切にされ、中野村の井戸の社として、明治初めに中井神社と改められました。中井神社の東神に対し、西神が山阪神社といわれています。かつて境内には樹齢1000年をこえるという榎の大樹があり、昔から世に異変のあるときは必ず夜間に轟音がするといひ伝えられていました。しかし、惜しくも昭和9年(1934)の台風で折れてしまい、根元5メートル程残り、現在は屋根を葺き、玉垣をめぐらして、白蛇社として祀られています。大阪市の保存樹林に指定された大楠、公孫樹(いちよう)、メタセコイヤ、小賀玉木(おかたまのき)があります。

⑥ はりのみち道標

大正3年(1914)に南海平野線が開通したさい、中野駅から中野鍼灸院まで320メートルの間に7基の道標「はりのみち」が辻の角々に建てられました。その後、平野線は廃線となりますが、現在でも2カ所の道標が残っています。

⑦ 中野鍼灸院

延暦年間(782～805)に設立された「中野降天鍼療院」(ナカノアマクダルハリヤ)が屋号です。平安時代から一子相伝を守り、男児が恵まれない時は、女性も当主としての鍼灸術を習得して現在に至っています。弘法大師が布教の途上に中野家に宿を借り、そのお礼として当時、最も進歩した鍼術とつばを示す「逐穴偶像」(大人と小人の丈1メートル弱の木像)と金針を授与。南北朝の頃に足利軍の戦火で屋敷を焼失しましたが、大師伝授の木像2体と鍼と漢方薬書は残り、今日に至っています。宝暦13年(1763)発行の摂津平野大絵図にも中野村小児鍼師と記されています。明治の頃には「中野鍼まいり」として1日500人以上の人々が殺到し、屋敷内に来館者を泊める宿舎が建てられたといひます。大正時代に大阪鉄道(現・近鉄南大阪線)が開通しましたが、そのさいに尽力し、そのお礼として最寄駅名が「針中野」となったといひます。かつては3階建ての塔屋敷がありましたが、老朽化で昭和50年(1975)に取り壊されました。

⑧ 駒川商店街

全長730メートル(東西190メートル、南北540メートル)の十字形の商店街です。昭和初期に中野市場(現在は廃業)を中心として商店が集まり、戦後の高度経済成長期にかけて店舗の数が増え続け、駒川商店街へと発展しました。天神橋筋商店街や千林商店街、十三商店街などと共に、大阪を代表する商店街の一つです。



① 駒川中野駅

かつては南海平野線が通っていました。昭和55年(1980)に地下鉄谷町線の駅として開業。駅名の駒川は、「大和川開鑿地方図」によれば狭山池の水を一時滞留させる轟池(堺市北野田)が源流で、西除川に併行して北進する川と、依羅池を源流とする川が合流した水路でした。古くは高麗川(巨摩川)と呼ばれ、これは沿岸に百済や新羅からの渡来人が住み着いたこと由来するといひられています。

③ 天堂山佛願寺

正式には天堂山佛願寺といひます。浄土真宗、仏光寺派に属して、慶長4年(1599)開基と伝えられています。天堂山の山号は昔、近くを流れていた天堂川(天道川)に由来しているのではないかとみわれています。また、山門の前(西側)にあるのが庚申街道です。

② 西除川跡

狭山池(大阪狭山市)から北流する川で、かつては大川(旧淀川)に注いでいましたが、大和川付け替えによって、水量が乏しくなり、いつしか埋め立てられてしまいました。古文書には「天堂川」「天道川」とも記されています。また、山阪神社と中井神社の氏子境界線が西除天道川の川跡ではないか?といった説などもあります。

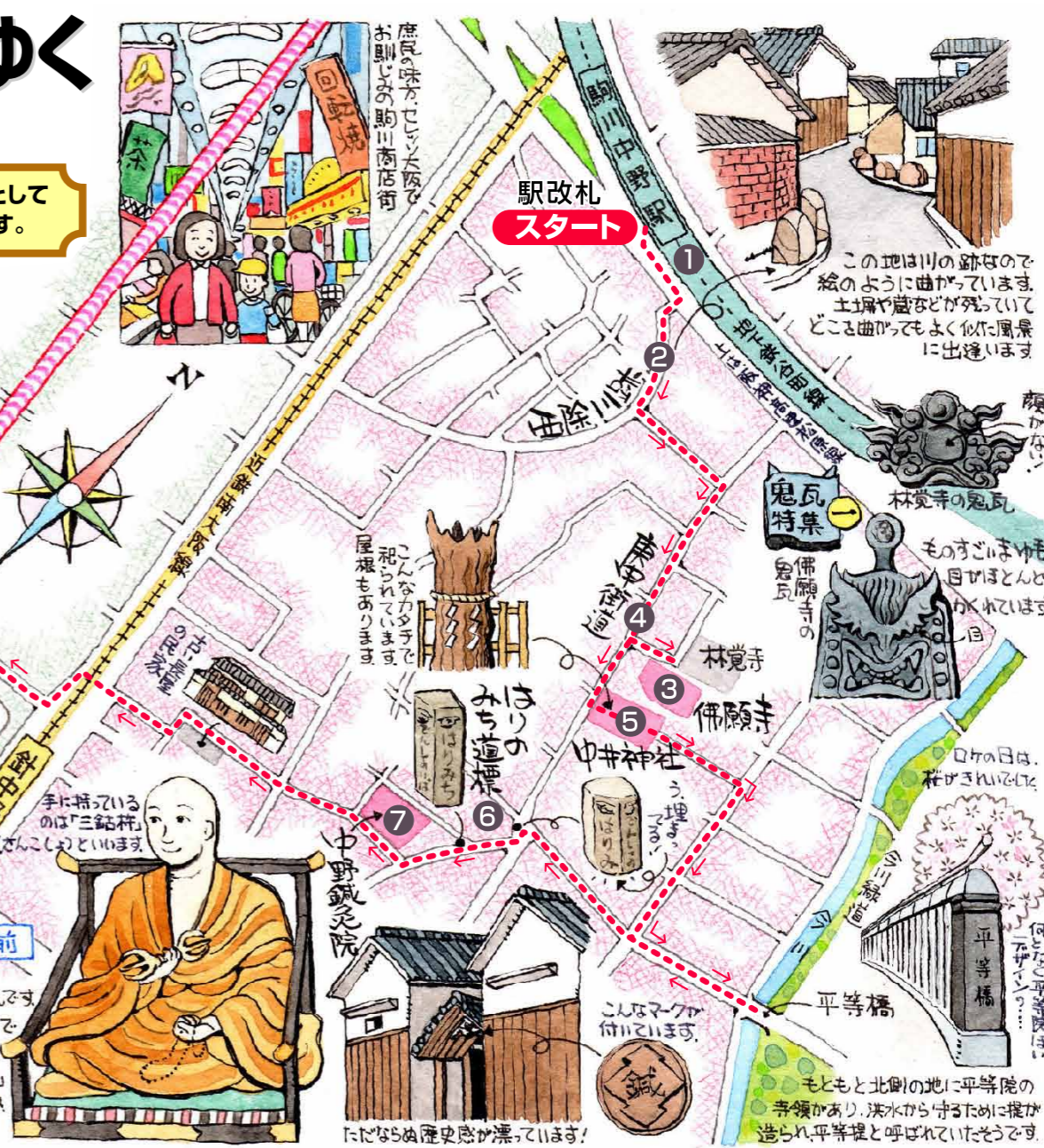
④ 庚申街道

庚申信仰の発祥地・四天王寺庚申堂への参詣道です。四天王寺南大門前を起点として南へ下って庚申堂前を通り、苗代田〜桃ヶ池〜北田辺〜中野〜住道矢田〜瓜破から長吉川辺町あたりで古市街道と合流します。四天王寺庚申堂は、京都八坂、東京浅草と並ぶ日本三庚申堂の一つで、西暦700年ごろに、豪僧範都により建立され、その後、豊臣秀頼によって再建されたことが記録に残っています。庚申信仰とは、人間の体内にいる三尸(さんし)という小さい虫が庚申日になると、寝ている間に体内から出て天にのぼり、天帝にその人間の悪業を報告するので、徹夜して三尸が抜け出す機会を与えなければ長生きするという道教に影響された民間信仰です。



⑨ 酒君塚古墳

東住吉区東部(鷹合・桑津・山坂一帯)は、かつて大きな古墳群があったことが、江戸時代の地籍図や古墳にまつわる伝承などから推定されています。酒君塚古墳もそのうちの1つで、近年の発掘調査によって、現在の墳丘の盛土には、かつて「平塚」と呼ばれた長径35メートル以上、高さ2メートル前後の古墳の墳丘が確認されています。出土した円筒埴輪から築造時期は4世紀末頃で、田辺古墳群では最も古い古墳であることが明らかになっています。御勝山古墳に次ぐクラスで、平野川(河内湖)にいたる駒川・今川水系の首長墓で、倭王権とも関わり深い人物であったと推測できます。酒君については「日本書紀」の仁徳天皇43年の条に、「依羅網倉阿弼古(よさみのみやけあひこ)が、不思議な鳥を捕まえて天皇にさしあげたところ、天皇はその鳥が鷹であることを知られ、百済王の一族である酒君に命じて鷹を養わせた」という記述があります。



⑩ 湯里住吉神社

信長の焼討、大坂冬の陣、夏の陣の兵火に遭い、社殿や社記を全て焼失して神社由緒の詳細は不明です。社伝によれば式内社で大社の社格を持つ中臣須牟地神社が、奈良末期(光仁天皇の在位770～781)に河内国丹波郡に編入され、当地の富田荘住民の氏神がなくなつたため、中臣須牟地社の祭神の一柱・中岡男命(住吉大社第二宮のご祭神)を勧請したことに始まるといひます。初めは須牟地神社と呼ばれ、その後、住吉二之宮、湯屋島(湯谷島)住吉と言われ、現在は湯里住吉神社と呼ばれています。天正18年(1590)の太閤検地の際は、81坪の小さな神社でしたが、大正11年(1922)発行の「西成郡誌」には189坪と記載され、昭和21年(1946)に信者の寄付によって381坪となりました。

⑫ 鷹合神社

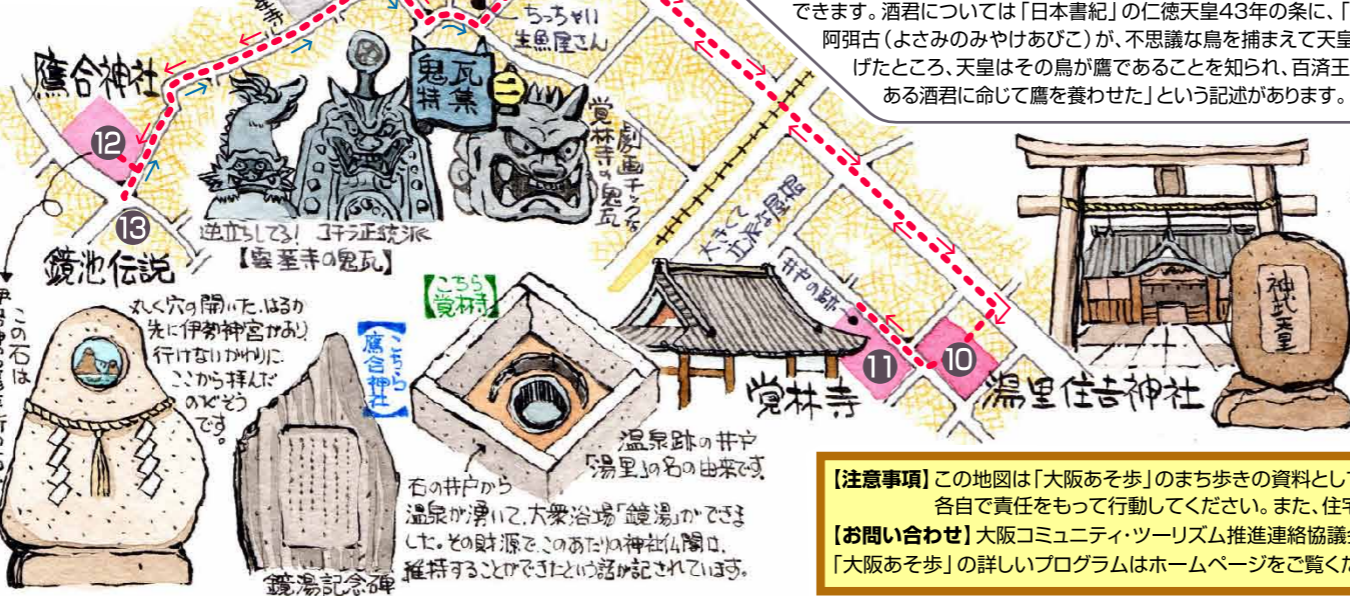
当初、鷹飼堂と呼ばれていました。明治5年(1872)に村社の資格を与えられ、地名にちなんで鷹合神社と改められました。住吉神社の旧神官青蓮寺という家の記録の中に、延徳元年(1489)、鷹合の祭り云々とあるので、創祀はそれ以前と考えられています。日本書紀の仁徳天皇43年秋九月条によると、依羅網倉阿弼古(よさみのみやけあひこ)が網を張ると見たこともない異鳥がかかりました。天皇が酒君を呼んで尋ねると「これは百済に多い鷹で、百済では鷹で小鳥を捕らえる遊びが流行しています」と答え、酒君は「おしかわのあしお」を脚に、尾に鈴をつけ、飼ひ慣らして、天皇に献上しました。天皇は百舌野で狩猟して多くの雉を捕らえ、大喜び、これはすばらしいと鷹を飼育したので鷹甘邑と呼ばれるようになった...といった記述があります。

⑪ 覚林寺

真宗大谷派。かつて覚林寺西側には、西除川が北上しており、その左岸と思われる場所には、昭和頃まで南北に堤が長く残っていました。「摂津郡談」に「里の湯四天王寺茶白山の南にあり世俗のいうこの所にむかし温泉あり。故に湯屋の里と伝ういつの世か退転せり。その日泉を慕い井を掘らしめ湯谷井と称す」と記載があり、覚林寺境内にある井戸が、その温泉跡と伝えられています。このあたりの地名は「湯里」といひますが、江戸期には「湯屋島村」とか「湯谷村」と呼ばれて、温泉が湧出していました。

⑬ 鏡池伝説

鷹合神社の東南角の房宅内に鏡池という池がありました。ある日、酒君が鷹の行方を見失ってしまい、各地を探しあぐね、この池のそばで思案にくれていたところ、かたわらの椎の大樹にとまる鷹の姿が水面うつつり、大いに喜んでとらえたという伝説があります。



【注意事項】 この地図は「大阪あそ歩」のまち歩き資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。
【お問い合わせ】 大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局 電話06-6282-5930(財団法人大阪コンベンション協会内)「大阪あそ歩」の詳細いプログラムはホームページをご覧ください。http://www.osaka-asobo.jp または「大阪あそ歩」でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2～3km、2～3時間程度を基準として作成されています。